

令和2・3年度、平成27・28・29・30・31年度入学者

令和4年3月25日
教養学部教務課前期課程

『履修の手引き』記載内容の変更について

令和4年度より、下記のとおり変更があります。本変更は、令和3年度以前に入学した学生にも適用されますので留意してください。

記

1. アドバンスト理科基礎実験科目の開講

II 各科目の履修方法

2. 基礎科目の履修

(7) 自然科学 基礎実験

① 理科一類生の履修方法

(略)

各グループには人数制限があるため、希望者が多い場合は抽選を行う。なお、一旦決定したグループは変更できない。1Sセメスターの間に行われる選択についての詳細は、教務課前期課程ホームページ等で周知するので、確認すること。特にグループ3は、基礎生命科学実験の履修を希望する学生向けに設けられているが、詳細は別途教務課前期課程ホームページで周知するので、十分検討してから選択すること。

但し、希望する者は、選抜試験等に合格した上で、基礎実験I、II（物理学）、基礎実験I、II（化学）、基礎生命科学実験、生命科学実験に代えて、アドバンスト理科基礎実験科目としてそれぞれ開講される基礎実験I、II（物理学） α 、基礎実験I、II（化学） α 、基礎生命科学実験 α 、生命科学実験 α を所定の曜限で履修することができる。

② 理科二類生・理科三類生の履修方法

(略)

なお、定められたグループの変更はできない。学生証番号の奇数・偶数が、上表のどちらのグループに割り振られるかは、『科目紹介』(シラバス抜粋)『時間割表』で確認すること。

但し、希望する者は、選抜試験等に合格した上で、基礎生命科学実験、生命科学実験に代えて、アドバンスト理科基礎実験科目としてそれぞれ開講される基礎生命科学実験 α 、生命科学実験 α を所定の曜限で履修することができる。

基礎科目授業内容概要（理科各類）

(略)		
自然科学	基礎実験	<p>基礎実験（物理学） （理科一類生）</p> <p>基礎実験（化学） （理科一類生）</p> <p>1 A1、1 A2、2 S1、2 S2タームの基礎実験（物理学及び化学）を通して物質科学の手法を学ぶ。</p> <p>1 A1、1 A2タームに基礎実験（物理学）を履修し2 S1、2 S2タームに基礎実験（化学）を履修するグループと、1 A1、1 A2タームに基礎実験（化学）を履修し2 S1、2 S2タームに基礎実験（物理学）を履修するグループがある。</p> <p>希望すれば、1 A1、1 A2タームに基礎実験（物理学）と基礎実験（化学）を1タームずつ履修し、2 S1、2 S2タームに基礎生命科学実験及び生命科学実験を履修することもできる（上限80名）。</p> <p>基礎実験I(物理学) α、基礎実験II(物理学) α：1 A1、1 A2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた物理学実験の基礎を学ぶ。</p> <p><u>基礎実験I(化学) α、基礎実験II(化学) α：1 A1、1 A2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた化学実験の基礎を学ぶ。</u></p>
		<p>基礎物理学実験 （理科二類・三類生）</p> <p>基礎化学実験 （理科二類・三類生）</p> <p>基礎生命科学実験 （理科二類・三類生）</p> <p>生命科学実験 （理科二類・三類生）</p> <p>1 A1、1 A2タームの基礎物理学実験及び基礎化学実験を通して物質科学の手法を学ぶ。</p> <p>1 A1タームに基礎物理学実験を履修し1 A2タームに基礎化学実験を履修するグループと、1 A1タームに基礎化学実験を履修し1 A2タームに基礎物理学実験を履修するグループがある。</p> <p>2 S1、2 S2タームでは基礎生命科学実験及び生命科学実験を通して生命科学の手法を学ぶ。主として生物学の実験を行うが、身体運動科学の実験も経験する。</p> <p><u>基礎生命科学実験 α、生命科学実験 α：2 S1、2 S2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた生命科学実験の基礎を学ぶ。</u></p>
(略)		

2. 展開科目「文理融合ゼミナール」研究入門の開講

II 各科目の履修方法

2. 展開科目の履修

(4) 文理融合ゼミナール

文理融合ゼミナールは全科類の任意選択科目で、「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野の科目がある。さらに「研究入門」では、教員のメンターシップのもと、文理融合の視点で得られた問いに取り組む。

(略)

展開科目授業内容概要

科目名	授業内容
展開科目	(略)
	<p>文理融合ゼミナール</p> <p>基礎科目の修学を基礎として、分野を超えた思考様式や研究方法を少人数形式で学ぶ。文系と理系を横断する芸術の実践に取り組み、創造力や分野を超えた発想・問題解決能力を育むと同時に、人間科学に基づいて創造の経験を分析的に理解する視点も養う。「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野からなる。<u>さらに「研究入門」では、教員のメンターシップのもと、文理融合の視点で得られた問いに取り組む。</u></p> <p>【「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。】</p>

3. 履修認定カード電子版に関する変更

Ⅲ 履修の手続きと授業受講に関する注意事項

1. 履修等の手続き

(4) 特別な手続きによる履修科目登録

② 要履修許可科目登録 (~~履修認定カード~~履修認定カード電子版)

対象科目	対象者
総合科目L系列[国際コミュニケーション] 「外国語初級(演習)①・②」(p. 〇〇, 〇〇)	文科生のうち、クラス指定の 曜限以外での履修希望者
PEAK科目(p. 〇〇)	履修希望者
進学選択における要求科目(p. 〇〇以降)のうち 理科生向け基礎科目	履修希望者
進学選択における要望科目(p. 〇〇以降)のうち 理科生向け基礎科目	履修希望者

要履修許可科目登録の対象となる科目は上表のとおりである。これらの科目については、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード履修認定カード電子版」を必要事項を記入し授業において担当教員の許可をもらった上で、所定の期間中に教務課に提出すること。後日、登録した科目が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

③ 他クラス聴講・補修登録 (~~履修認定カード~~履修認定カード電子版)

他クラス聴講(p. 〇〇)および補修(p. 〇〇)を希望する場合は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード履修認定カード電子版」を必要事項を記入し授業において担当教員の許可をもらった上で、所定の期間中に教務課に提出すること。後日、登録した科目が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

④ その他、特別な手続きが必要な場合

(略)

3) 身体運動・健康科学実習(メディカルケアコース)(p. 〇〇)

履修希望者は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード履修認定カード電子版」を必要事項を記入し、セメスターの初めに指定クラス担当教員に申し出て許可をもらった上で、所定の期間中に教務課に提出すること。後日、「身体運動・健康科学実習」の削除および「メディカルケアコース」の登録が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

教務課前期課程窓口においてクラス指定された「身体運動・健康科学実習」の削除および「メディカルケアコース」の登録を申し出ること。

履修認定カード電子版

~~教員が要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生を確認するためのカードである。教務課前期課程窓口にて配付するので、必要事項を記入の上、該当の授業において担当教員に提出して許可をもらうこと。3枚綴りの複写式となっており、許可サイン欄に教員のサインをもらい、1枚目を教員に提出、2枚目を教務課に提出、3枚目を学生が保管する。~~

~~要履修許可科目、他クラス聴講、補修は、履修認定カードを教員および教務課の両方に必ず提出すること。提出していなかったり、記載内容に不備があると、履修が許可されない場合や成績評価の対象とならない場合があるので注意すること。~~

~~なお、授業によっては、要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生の人数を制限しているため、原則として履修認定カード提出後の履修削除は認めない。やむを得ず削除が必要となった場合は、所定の期間中に該当の授業において担当教員に承認を得るとともに、教務課に申し出ること。~~

~~学生が要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修を申請するためのフォームである。あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、提出すること。手続方法の詳細は前期課程ホームページで確認すること。~~

~~指定された期日に遅れた場合は受け付けられないので注意すること。また、記載内容に不備があると、履修が許可されない場合や、成績評価の対象とならない場合があるのであわせて注意すること。~~

~~なお、授業によっては、要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生の人数を制限しているため、原則として履修認定カード電子版による申請によって登録された履修の削除は認めない。やむを得ず削除が必要となった場合は、所定の期間中に該当の授業において担当教員に承認を得るとともに、教務課に申し出ること。~~

2. 授業受講に関する諸注意

(3) 聴講カード

授業によっては、担当教員が主に出席を確認するために「聴講カード」を配付し、学生に提出させる場合がある。「履修認定カード履修認定カード電子版」(p. 〇〇)とは異なり、教務課窓口への提出は不要である。

IV 定期試験と成績の評価

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(3) 他クラス聴講

- ② 他クラス聴講の申請および許可
- 2) 初年次ゼミナール以外の基礎科目

他クラス聴講しようとする者は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード電子版」を所定の期間中に教務課に提出すること。「履修認定カード」に必要事項を記入し授業において担当教員の許可をもらった上で、所定の期間中に教務課窓口へ提出すること。

(略)

(5) 補修

- ① 基礎実験の補修

(略)

補修を希望する者は、必ず2Aセメスターの第1週目に「履修認定カード」を持参のうえ担当教員に補修を願い出て、許可を得た上で出席簿に名前を追加してもらうこと。また、定められた期間中に

「履修認定カード電子版」を教務課窓口に提出すること。

4. 他クラス聴講に関する変更（分かりやすい表現に）

IV 定期試験と成績の評価

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(3) 他クラス聴講

① 他クラス聴講の種類

1) 2年生が前期課程修了に必要なクラス指定の必修科目(1年次)の不足単位を補充する場合
(表・略)

(注1) 1S1、1S2タームの科目は2S1、2S2タームのどちらか一方のみに、1A1、1A2タームの科目は2A1、2A2タームのどちらか一方のみに他クラス聴講が認められる。

(注2) 2S1、2S2タームのどちらか一方、および2A1、2A2タームのどちらか一方の、一年間に2回まで他クラス聴講が認められる。

(注3) 2Sセメスターおよび2Aセメスターでは、一年間に2回まで他クラス聴講が認められる。
(略)

5. 総合科目の新設及び変更

(別表4) 総合科目授業内容概要

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定セメスター・ターム	単位数
変更	A	表象文化論	演劇論Ⅰ	主に東洋の舞台芸術を対象として、その諸問題を言語(テキスト)、演技(パフォーマンス)、演出、劇場等の多角的視点から考察する。 <u>【2023年度から廃止】</u>	S/A	2
変更	A	表象文化論	演劇論Ⅱ	主に西洋の舞台芸術を対象として、その諸問題を言語(テキスト)、演技(パフォーマンス)、演出、劇場等の多角的視点から考察する。 <u>【2023年度から廃止】</u>	S/A	2
変更	A	表象文化論	<u>演劇論</u>	<u>古今東西の広義の舞台芸術・パフォーマンス芸術について、その諸問題を言語(テキスト)、演技(パフォーマンス)、演出、劇場等の多角的視点から考察する。</u> <u>【2023年度から新設】</u>	<u>S/A</u>	<u>2</u>
新設	C	法と社会	<u>現代と法</u>	<u>現代社会における法的な課題を、様々な法学専門分野から多角的に考察し、法学や諸科学をさらに深く学ぶための視点を提供する。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
廃止	C	関連社会科学	<u>関連社会科学</u>	<u>現代社会にかかわる学際的研究の成果を取り上げ、横断的・総合的な社会科学の基礎を講義する。</u>	<u>S/A</u>	<u>2</u>
変更	D	環境・資源農学	環境と生物資源	地球環境の存続にとって、自然生態系の仕組みと人間活動によるその改変の関係を正しく理解することが重要である。持続的な地球環境を維持するために必要な生物多様性の保全、人間活動のあり方について学ぶ。 <u>【2023年度から廃止】</u>	S・A2	1または2

6. 各種手続がオンライン化されたことによる変更

II 各科目の履修方法

1. 履修に関する一般的注意事項

(1) セメスター毎の履修登録単位数の上限（キャップ制）

(略)

〈例外措置として履修登録単位数の上限を超えて履修登録を認める場合〉

入学後（再入学を除く。）の最初のSセメスターにおいて以下の要件を満たした学生は、次のAセメスターから履修登録単位数の上限を超えて履修登録を認めるものとする。ただし、希望する学生は要件を満たした上、学部の定める期間内に、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」で指定された方法により教務課窓口において所定の用紙により申請しなくてはならない。

- ① 前期課程科目を25単位以上取得していること
- ② 前期課程科目の取得単位において合格・不合格のみの評価による科目の単位数を除き、「優上」及び「優」の評価を受けた科目に係る単位数の取得単位数に対する割合が90%以上であること

なお、初年次特別休学を許可された学生および入学後の最初のSセメスターを休学する学生のうち、履修登録単位数の上限を超えて履修登録を希望する者については、復学後の最初のSセメスターに上記①および②の要件を満たした上、学部の定める期間内に、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」で指定された方法により教務課窓口において所定の用紙により申請するものとする。

(略)

IV 定期試験と成績の評価

2. 成績の評価

(3) 成績判定が不合格となった科目の成績評価の確認申請

成績判定が不合格となった科目（成績評価が不可・不合格・欠席の科目）で、明らかにそれが担当教員の誤りであると思われる場合のみ、~~UTAS（追試験の場合は教務課前期課程ホームページ窓口）~~にて担当教員に対する成績評価の確認を申請することができる。（追試験の場合は教務課前期課程ホームページで別途指示する）。制度の趣旨に沿わない申請は控えること。成績評価の確認の申請は成績評価確認期間中のみ受け付ける。なお、確認の結果、採点訂正により成績が下がることもあるので留意すること。また、評価が「可」以上の科目は申請できないので留意すること。

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(2) 追試験

(略)

基礎科目・科目名	追試験実施の有無	受験資格(タイプ)	申請手続き	審査の有無	成績(点数)上限
外国語	有	A	<u>教務課窓口</u>	有	75点
		B	<u>教務課窓口</u>	有	50点
情報	有	A	<u>教務課窓口</u>	有	75点(注)
		C	UTAS	無	50点
身体運動・健康科学実習	無	—	—	—	—
初年次ゼミナール	無	—	—	—	—
社会科学	無	—	—	—	—
人文科学	無	—	—	—	—

自然科学	基礎実験	無	—	—	—	—	
	数理科学	数理科学基礎	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		微分積分学①	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		微分積分学②	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		線型代数学①	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		線型代数学②	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		数理科学基礎演習	※	—	—	—	—
	数学基礎理論演習	※	—	—	—	—	
	微分積分学演習	※	—	—	—	—	
	線型代数学演習	※	—	—	—	—	
	物質科学	力学	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		電磁気学	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		熱力学	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		化学熱力学	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		構造化学	有	A	教務課窓口	有	75点(注)
		物性化学	有	A	教務課窓口	有	75点
C	UTAS			無	50点		
生命科学	生命科学	有	A	教務課窓口	有	75点	
			C	UTAS	無	50点	
	生命科学 I	有	A	教務課窓口	有	75点(注)	
	生命科学 II	有	A	教務課窓口	有	75点(注)	

(注) ただし、他クラス聴講生は50点を上限とする。

(受験資格A) 病気・事故など不測の事態により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格B) 受験資格A以外の特別な事由（事前届出）により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格C) 定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者。

※ 対応する数理科学講義科目（数理科学基礎、微分積分学①②、線型代数学①②）の受験資格Aによる追試験の成績が75点を上限として反映される。（演習科目のみを他クラス聴講している場合および過年度に演習科目のみ単位取得している場合を除く）

具体的な申請の[方法・時期](#)および追試験実施の日程は、[教務課前期課程ホームページ後目掲示](#)で確認すること。

① 追試験の申請および許可

1) 受験資格A

基礎科目「外国語（既修、初修）」、「情報」、「数理科学（数理科学基礎、微分積分学、線型代数学）」、「物質科学」、「生命科学」の各科目の定期試験を病気、事故など不測の事態により欠席した者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験後の定められた期間に、「欠席追試験受験願」~~（教務課前期課程窓口にて配付）~~を教務課前期課程[窓口](#)に提出、出願すること。（略）

2) 受験資格B

基礎科目「外国語（既修、初修）」の定期試験を特別な事由により欠席する予定のある者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験前の定められた期日までに、「欠席追試験受験願」~~（教務課前期課程窓口にて配付）~~を教務課前期課程窓口~~に~~提出、出願すること。その際、証明書類等を必ず添付すること。（略）

7. 掲示板が廃止されたことによる変更（部分）

Ⅲ 履修の手続きと授業受講に関する注意事項

2. 授業受講に関する諸注意

(1) 掲示

本学部では、授業・試験の日程や各種事務手続きの日程、時間割や教室の変更、授業の休講や補講に関する公示や、進学選択に関する諸通知等、重要事項を含む様々な情報の伝達を、原則として**掲示UTAS**及び教務課前期課程ホームページ**での掲示**により行っている。~~教務関係の掲示板は正門を入れて左側にあるので、登校の際は必ず立ち寄って、掲示を見るようにすること。~~

また、上記の伝達事項のうち、個々の学生への連絡・呼び出し以外の主要なものは、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」に掲載している。

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/>

~~なお、UTASの掲示板には、掲示情報の一覧が掲載されている。~~

(2) 授業の休講、補講、教室変更、時間割変更等

授業の休講、補講、教室変更、時間割変更等の情報については、**掲示板およびUTAS**ログイン後の【休講・補講・教室変更参照】**および教務課前期課程ホームページ**等に掲載する。休講や教室変更については、授業当日の通知となる場合があるので、**掲示板やUTASや教務課前期課程ホームページ**は毎日確認すること。録期間が終了すると表示されなくなるので留意すること。

（略）

以上